

【今日の説教から】

先週の箇所でパウロは、「富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている」と語りました。彼はありとあらゆる境遇を通らされました。そして彼が達した結論は「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる」というものでした。

今日はいよいよこの書の結語となるところです。

喜ばなさいと繰り返し励ますパウロ。やはりピリピの教会にも困難が襲いかかっていたのでしょう。思い煩いがはびこっていたのでしょう。しかし私たちには祈りがある、聞いてくださる方がいて、私たちの人知なるちっぽけな範疇をはるかに超えて測り知れない神様の平安によって心も思いも人生の筋道も守られるという、そういうところに望みを置きなさい。主は近くにおられるから信仰をもって寛容と愛とを現し、かつてそうしてくれたように熱い心で患難を共にし、伝道者であるパウロを思う気持ちを再びいつも芽生えさせてほしい。

「贈り物を求めているのではない。わたしの求めているのは、あなたがたの勘定をふやしていく果実」。神様のことを思い、患難をいとわず、その働きのために捧げるならば、神様はそのあふれる豊かさに従ってあなたの必要を満たしてくださる。私が有り余るほどに満たしを得ているように、あなたも。だからかんばしい、甘美な香り伴う愛の働きかけを続けてほしいとパウロは語るのです。

皆様、おはようございます。

11月もあれよあれよと半ばに入ってまいりました。このところの冷えは厳しいですね。長らく季節に反して暖かい日が続いていたのですが、急に季節相応の気候になってきました。慌てて紅葉も美しく色づいてきたようです。

風邪もはやりつつあるようです。どうぞ皆様ご自愛ください。

さて長らく愛読してまいりましたピリピ書も今日で終わりです。獄の中にありながら、力強く励ますパウロの姿、喜ばなさいと語る彼の姿が印象的でした。

4:4 あなたがたは、主にあっていつも喜ばなさい。繰り返して言うが、喜ばなさい。

4:5 あなたがたの寛容を、みんなの人に示しなさい。主は近い。

4:6 何事も思い煩ってはならない。ただ、事ごとに、感謝をもって祈と願いとをささげ、あなたがたの求めるところを神に申し上げるがよい。

4:7 そうすれば、人知ではとうてい測り知ることのできない神の平安が、あなたがたの心と思いとを、キリスト・イエスにあって守るであろう。

4:12 わたしは貧に処する道を知っており、富における道も知っている。わたしは、飽くことにも飢えることにも、富むことにも乏しいことにも、ありとあらゆる境遇に処する秘けつを

心得ている。

4:13 わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる。

彼はありとあらゆる境遇を通りました。楽しみや喜び、そして数多くの苦しみと悲しみと悩み。しかし神様は全てから彼を助け出し、導き出してくださいました。

2 コリント 11:22 彼らはヘブル人なのか。わたしもそうである。彼らはイスラエル人なのか。わたしもそうである。彼らはアブラハムの子孫なのか。わたしもそうである。

11:23 彼らはキリストの僕なのか。わたしは気が狂ったようになって言う、わたしは彼ら以上にそうである。苦労したことはもっと多く、投獄されたことももっと多く、むち打たれたことは、はるかにおびただしく、死に面したこともしばしばあった。

11:24 ユダヤ人から四十に一つ足りないむちを受けたことが五度、

11:25 ローマ人にむちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、そして、一昼夜、海の上を漂ったこともある。

11:26 幾たびも旅をし、川の難、盗賊の難、同国民の難、異邦人の難、都会の難、荒野の難、海上の難、にせ兄弟の難に会い、

11:27 勞し苦しみ、たびたび眠られぬ夜を過ごし、飢えかわき、しばしば食物がなく、寒さに凍え、裸でいたこともあった。

11:28 なおいろいろの事があった外に、日々わたしに迫って来る諸教会の心配ごとがある。

11:29 だれかが弱っているのに、わたしも弱らないでおれようか。だれかが罪を犯しているのに、わたしの心が燃えないでおれようか。

11:30 もし誇らねばならないのなら、わたしは自分の弱さを誇ろう。

11:31 永遠にほむべき、主イエス・キリストの父なる神は、わたしが偽りを言っていないことを、ご存じである。

11:32 ダマスコでアレタ王の代官が、わたしを捕えるためにダマスコ人の町を監視したことがあったが、

11:33 その時わたしは窓から町の城壁づたいに、かごでつり降ろされて、彼の手からのがれた。

そして彼は燃える心で神様に感謝し、再起する。彼は再び立ち上がるのです。

思い煩い、痛み、悲しみと災難、苦労、ハプニング、先行きの見えない不安、もろもろの状況に陥りながら、しかし思い煩ったからといってどうなるものでもないのです。パウロはそのおびただしいもろもろの境遇を辿る中、「ありとあらゆる境遇に処する秘けつを心得ている」すなわち「わたしを強くして下さるかたによって、何事でもすることができる」という真理に到達したのです。

4:14 しかし、あなたがたは、よくもわたしと患難を共にしてくれた。

そんな境遇の中でパウロの支えとなったのがピリピの教会でした。彼らはパウロとよく苦難を共にしました。

あなた方は私が患難の時、困ったとき、苦悩、心痛、悲嘆の時、苦痛と疲労の時、困窮と苦境、貧苦と窮乏の時、困難な状況、苦しみの時に良く、適切に、上手に私を助けてくれた、ありがとう、あなたが神様から遣わされた幸いだ、神様があなた方を通して私を顧みてくださり感謝だとパウロは語ります。

4:15 ピリピの人たちよ。あなたがたも知っているとおり、わたしが福音を宣伝し始めたころ、マケドニヤから出かけて行った時、物のやりとりをしてわたしの働きに参加した教会は、あなたがたのほかには全く無かった。

4:16 またテサロニケでも、一再ならず、物を送ってわたしの欠乏を補ってくれた。

4:10 さて、わたしが主にあって大いに喜んでいるのは、わたしを思う心が、あなたがたに今またついに芽ばえてきたことである。実は、あなたがたは、わたしのことを心に掛けてくれてはいたが、よい機会がなかったのである。

ピリピの教会は、他の教会に先駆けてただ一つ、パウロの福音の働きの最初の時から彼を支え続けた教会でした。いろいろな風が吹き荒れてそれをする余裕を失ってしまった時もあったことを聖書は示唆しますが、しかしまたパウロを思う気持ちが復活して芽吹いて嬉しいと彼は語りました。一度ならず度々ピリピの教会はパウロを支援したのです。ピリピの教会は愛にあふれた教会であり、愛を形に現わす教会でした。

4:18 わたしは、すべての物を受けてあり余るほどである。エパフロデトから、あなたがたの贈り物をいただいて、飽き足りている。それは、かんばしいかおりであり、神の喜んで受けて下さる供え物である。

ここで彼は欠乏から、再びピリピの教会が彼を支援し始めたことを歓迎しているのではないと念を押します。その事ももちろん嬉しいのだとは思いますが、彼は神様から頂くという特別なルートを持っていたのです。

全てのものを受けて有り余るほどだと彼は語ります。それくらいエパフロデトという人を送ってくれたことをパウロは感謝しています。その配慮の気持ちは、かんばしい、甘い香りのする快い香りのする、神様が喜び、歓迎し、望んでくださる、良い、受け入れられる供え物だと彼は語ります。そういう神様に受け入れられ、喜ばれる供え物をする者のために、パウロは「勘定をふやしていく果実」が育つようにと神様に求めるのです。パウロは贈り物を求め探すのではなくて、もうすでに満ち溢れて、芳しい捧げものをしてくれた人たちのために、神様がその実りを、収穫を、その人生の結果を豊かに育て、増し加えてくださいますようにと神様に求めているのです。

4:19 わたしの神は、ご自身の栄光の富の中から、あなたがたのいっさいの必要を、キリスト・イエスにあって満たして下さるであろう。

わたしの神は、ご自身の栄光の富に満ち溢れておられるお方。無限の栄光と富とをお持ちの方。そして神様は、そのご自身の栄光の富に従って、その秤によって私たちを顧みてくださる。あなたたちの必要をきっと満たしてくださる。それを実現してくださるとパウロは語ります。それがイエスキリストの栄光にふさわしい神様の行動なのです。イエス様を十字架につけ、その御子のいのちをもって私たちに罪の赦しと永遠のいのちをお与えくださった神様は、どんなにか私たちを恵んでくださるのでしょうか。

ローマ 8:31 それでは、これらの事について、なんと言おうか。もし、神がわたしたちの味方であるなら、だれがわたしたちに敵し得ようか。

8:32 ご自身の御子をさえ惜しまないで、わたしたちすべての者のために死に渡されたかたが、どうして、御子のみならず万物をも賜わらないことがあろうか。

主の計ってくださる升は極めて大きい、そのようなお方が「ご自身の栄光の富の中から、あなたがたのいっさいの必要を、キリスト・イエスにあって満たして下さるであろう」とのことなので、私たちもまた、できる限りの芳しい捧げものを神様と御国のために捧げていきたいと願うのです。そうすれば、神様は私たちの果実を、実りを、人生の結実を豊かに豊かに増し加え、たわわに育ててくださるでしょう。私たちの一切の必要を満たしてくださるでしょう。そのように守られた、見守っていただいている生活の中にあると知れば、「わたしを強くして下さるかた」が共におられると知れば、どんな境遇の中からも助けてくださるお方だと知れば、どうして私たちは将来に対して怖がったりする必要があるのでしょうか。神様はご自身の栄光あふれる豊かさ、富から、これから未来永劫その秤に従って私たちの必要を満たし続けてくださいます。何という保証でしょうか。何という守りでしょうか。

4:20 わたしたちの父なる神に、栄光が世々限りなくあるように、アメン。

私たちもまた、いつくしみ深いお方に感謝を捧げましょう。

4:21 キリスト・イエスにある聖徒のひとりびとりに、よろしく。わたしと一緒にいる兄弟たちから、あなたがたによろしく。

4:22 すべての聖徒たちから、特にカイザルの家の者たちから、よろしく。

4:23 主イエス・キリストの恵みが、あなたがたの霊と共にあるように。

聖徒という言葉が繰り返し出てきます。「聖なる」という言葉は、きよい、きよめられたという意味のほかに、神によって取り分けられた、神様のために取り分けられたという意味があります。

カッターやハサミはそのあたりにたくさんあふれていますが、手術室で使える刃物やハサミやピンセットはそのあたりに無造作に置いてある者とは根本的に違います。それはその特別に重要な用途のために滅菌されて保管されているということです。体の深部を触る器具にばい菌がついていては、体の奥に感染症のもとを送り込むことになります。そうならないように、徹底してそれらの器具には滅菌処理が施され、その後の扱いも慎重を極め、不潔にならないようにと定められるのです。これらの用具は、その特別な用途のために特別に取り分けられています。

私たちがきよいということは、私たちが何か自分を誇るために、何か称号として与えられているものではありません。ましてや私たちが自分の努力と能力でたどり着いた状態でもありません。

私たちは神様によって、神様の特別な目的のために取り分けられ、きよいとされているものです。私たちには目的があつてきよく取り分けられているのです。メスも、ハサミも、ピンセットも、滅菌されたままで大事に大事に保管庫にしまっているだけでは滅菌された目的を果たすことが出来ません。用いられるためにきよくされているのです。聖徒。それは神様からきよく取り分けられ、神様のお働きの携わるものとして神様のために取り分けられた精鋭部隊なのです。さあ、困難があつてもくじけずに、召されて取り分けられた神様の目的を果たしましょう、聖徒の皆さん。こういったパウロの励ましに満ちた語り終わりがここにはあります。道に行き悩むとき、そこにはパウロのお手本があります。イエス様のお手本があります。そうして私たちもまた、せっかく取り分けてくださった神様の目的にふさわしい実践の働きに用いられたいと願うのです。

1 ペテロ 2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた種族、祭司の国、聖なる国民、神につける民

である。それによって、暗やみから驚くべきみ光に招き入れて下さったかたのみわざを、あなたがたが語り伝えるためである。

2:10 あなたがたは、以前は神の民でなかったが、いまは神の民であり、以前は、あわれみを受けたことのない者であったが、いまは、あわれみを受けた者となっている。

◇祈禱；天の父なる神様、今日の礼拝を感謝します。思い煩いに沈む私たちですが、「あらゆる人知を超える神の平和」により私たちをお守りくださる神様、本当にありがとうございます。あなたは「御自分の栄光の富」に従って私たちの必要を満たしてください。わたしを強めてくださる方のお陰で、わたしにはすべてが可能です。主イエス様と共に苦しみを共にする時、主と共にある時、あなたは私たちに豊かな実を実らせ、必要に対して、余りあるものを備えてくださいます。どうぞあらゆる苦しめる方々を神様の救いと平安の中にお導き下さい。私たちの家族と、地域の方々を祝福して下さい。私たちをお用い下さい。主イエス様の御名によって祈ります。アーメン